

不動産投資信託「J-REIT」

物件取得14年も好調

東北15件復興需要後押し



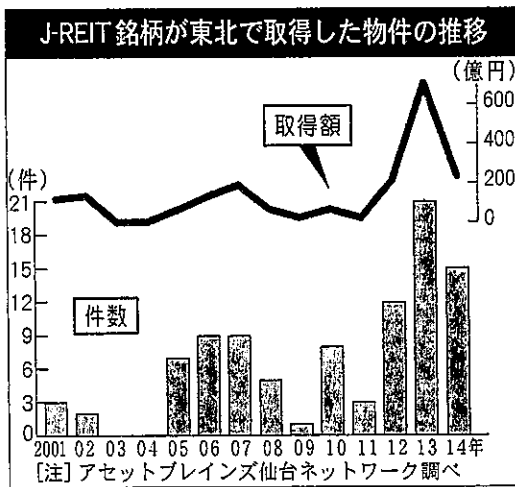
ユナイテッド・アーバン投資法人が36億円で取得した広瀬通SEビル

仙台圏を中心とした東北で、不動産投資信託「J-REIT(リート)」が2014年に取得した物件数は15件で、過去最多の13年(21件)に次ぐ取引があったことが、金融・不動産関連の専門家らでつ

くアセットブレインズ家への利回りに充てる。15件の地域別は、仙台市が11件、福島市が2件、一関市と若手県矢巾町が各1件。用途別は賃貸マンション6件、オフィス3件、ホテルと物流が各2件、商業とヘルスケア

J-REITは東京証券取引所の専門市場に上場する銘柄。不動産大手などが投資法人を設立し、賃料など収益を投資

が各1件。取得総額は約220億2600万円。最高はJ-REITの仙台駅前口のオフィス



とろほく

経済

ビル「広瀬通SEビル」(仙台市宮城野区)の36億円で、丸紅系のユナイテッド・アーバン投資法人(東京)が取得した。大和証券グループ系の日本ヘルスケア投資法人(東京)は、ニチイ学館(同)が運営する介護付き老人ホーム「ニチイケアセンター福島大森」(福島市)を2億6500万円取得。病院などヘルスケア分野を対象とした東北初の事例となった。

J-REITが創設された01年以降、東北での取得件数と取得総額の推移はグラフの通り。12年以降の増加が目立つ。アセットブレインズの佐々木正之事務局長は「金融緩和などアベノミクス効果で、国内の不動産投資市場は活況を呈している。東北では復興需要もあり、市場の好調が続くのではないか」と分析した。